

り、されば是も臺なり、かゝる臺もあればこそ、圓臺の名も有也けり、雅亮裝束抄の中に、小饗は高坏にて居るなり、此高坏の居やう、一人の前に三本なり、それを向ふざまに居れば、六本が差合て居らるゝ也とあるなり、此高坏の上丸やうならば、六本が差合てなどかくべうもあらずかし、さは是も方なる臺なるべし、雜要抄、關白右大臣殿、東三条に移御の御前の物の圖を見れば、是は彼圓臺なるべし、方なるをも圓なるをも意にまかせ用ひたるにや、又高坏とも臺とも何れをもかよはしてよぶ也けり、

〔西宮記臨時八〕陪膳事

右府○藤原命云、公卿陪膳時、以御臺一雙供大床子上、不用御臺盤、是故殿藤原實頼教命也云々。

〔江家次第十九月〕射場始幼

直衣猶着

二度射

供御膳○註

一御臺

於無名門下頭傳取居西、

二御臺

不警蹕五位人取之

〔三中口傳二甲〕一貴賤饗應事

色目事

御臺四本

一本御臺木箸

無蓋可_レ用銀

一雙也、

菜七種

盛也高

御箸耳土器木

一本比目菜八種

耳土器酢鹽各一

箸口

可_レ用器

一本汁菜八種、土

器可_レ用之

一本葉子八種、土器

可_レ用之

中略

一本可_レ用之

一本汁菜八種

一本葉子八種

臺三本

一本箸臺

菜八種

一本汁菜八種

一本葉子八種

〔空穂物語藤原君〕おとなばらはさうぞく玄たり、物まいるだい四して、もからぎぬきたる人まか

なひす、下略

〔榮花物語木綿四手〕かくて物まいらせ給、まかなひは左衛門督つかうまつり給、とりつぎ給事は

二位中將三位中將などせさせ給、御だいまいりてのほどに、大とのいでさせ給て、うるはしき御よそひにて、御かはらけ參らせ給ほど、いへばをろかにめでたし、